

外国語活動の授業の進め方

～指導方法例の映像化を通して～

外国語活動研究会議

研究員 小針 由美子 (川崎市立向小学校)

塚田 弥生 (川崎市立西御幸小学校)

齋藤 宗則 (川崎市立久地小学校)

藤原 剛 (川崎市立野川小学校)

指導主事 伊藤 敏明

I 主題設定の理由

平成 25 年 12 月に文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革計画」を公表し、その中で 2020 年からの小学校 3・4 年生での外国語活動導入と小学校 5・6 年生での英語の教科化を打ち出している。平成 23 年度から全面実施となった現行学習指導要領において、新たに外国語活動が必修化されて 4 年が経過しようとしているが、国はさらに大きな英語教育改革に踏み出した。

今後、今まで以上に多くの教員が外国語教育に携わることになるが、外国語活動の指導経験がない教員は不安を感じていると思われる。そのような状況に対応するため、本市においては、国際教育研究会の協力を得ながら、学級担任が主導する外国語活動および低・中学年での英語活動の実践事例集を作成したり、外国語活動研究推進校では、学級担任が主導する研究報告¹を発信したり、外国語活動を進めるための情報提供は十分にされている。しかしながら、実際に授業を行うときに学級担任がどのような教室英語を使い、どのように子どもを動かしていくのかは作成された紙面からは読み取りにくい。また、平成 23 年度からの外国語活動の開始に際し、本市では、すべての時間に ALT との授業が可能となったが、ALT に依存した授業も見られ、学級担任が主導する外国語活動の授業が十分に展開されているとは言えない状況もある。

このような状況に対して、今まで外国語活動で行われてきた様々な活動の指導方法について、学級担任が主導する視点で再検討しながら、映像化することにより、今後の外国語教育に関わる学級担任が授業づくりに参照できる資料を提供しようと考えた。

II 研究の内容

1 研究の方法

本研究会議の研究員が担当する小学校 2 年生、3 年生、4 年生、そして 6 年生において学級担任が主導する外国語活動（英語活動）の視点から検証授業を計画実施、授業の中で行われた諸活動について改善点を検討し、検討された活動を再度授業で行い映像化を図る。また、それぞれの活動について教室英語を中心にスクリプトを作成すると共に活動の留意点を示すようにする。

2 諸活動を再検討する際の背景となる考え方

現在の外国語教育には、第 2 言語習得理論の様々な見地が反映されている。それらを生かした授業展開として、酒井(2014)は、大切にしたい 3 つのポイントを「聞くこと」、「考えること」そして「関わること」としている。表 1 は、それらを大切に理由をまとめたものである。

様々な活動を検証する際に、英語を聞く時間があるか、児童が頭を働かせて英語の意味を考える（推測する）場面があるか、そして、学級担任が主導する中で安心感をもって、仲間と関わりながら英語

¹ 平成 26 年 12 月 平成 25・26 年度川崎市教育委員会研究推進校 田島小学校

を使っているかという3点を低・中・高学年共通の視点として念頭におきながら研究を進めた。

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基本である。 ・言語習得の手段であり、何とかすればその意味を理解できるインプットを多量に受け取ることは習得を促進する。 ・相手を理解しようとしたり、尊重しようとしたりする異文化理解の基本的な姿勢である。
考えること	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことは考えることにつながる。 ・すでに持っている知識を活性化しながら、新しい知識（意味や表現）に気付く。 ・児童が知的好奇心を持つ。
関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容や知りたい内容について相手とのやりとりをすることは言語習得を促進する。 ・安心して学べる環境を作るために必要である。 ・異文化コミュニケーションをするには、まず身近な人とのコミュニケーションができることが必要である。

表1 3つのポイントが大切な理由

3 学級担任が使う教室英語

基本的な表現は、Hi, friends!指導編の裏表紙にある教室英語一覧や田村(2010)の教室英語集を参考にし、各活動に必要な表現をできるだけ簡易に表すようにした。必要最小限の教室英語であっても、日本語が減ることにつながり、児童にとっては英語を聞く機会が増えることになる。最初は基本的な指示を英語でできるようにし、少しずつ新しい表現を使っていくようにしたい。

4 研究の実際

(1) 検証授業1 検証する主な活動（あいさつ～ウォームアップ・語彙の練習・チャンツ）

単元「Lesson 4 Turn right. (Hi, friends!2)」(A小学校6年)

活動内容	○成果と●課題
(チャイム前に英語の音楽を流した) 1 あいさつ ①全員立たせる ②全体であいさつ ③担任が数人の児童とあいさつ 担任と児童によるモデル提示 ④男女2人ずつと歩き回って会話 2 語彙の復習 デジタル教材を活用して、道案内関係語彙の発音練習 3 チャンツ Where is the station? デジタル教材を活用 ①普通の速さで ②遅い ③普通 (以下省略)	○外国語学習の雰囲気づくりとして効果的だった。 ○男女2人と話すことと決めたので、男女別になることなく児童が活動に取り組めた。高学年ではこのような条件づけが適切だった。 ○タイマー代わりにBGMを活用し、話しやすい雰囲気を作った。 ●あいさつだけでなく既習事項 (Do you like ~?) につなげたが、児童とのデモの段階で、自然な会話のつながりにならなかった。 ●担任は全体を見ているだけでなく、活動中は、その日に観察する児童を決めてモニターすると良かった。 ●次の活動に移る前に、観察した中での良かったところや気を付けたいところなどを伝えられなかった。 ○デジタル教材を活用して、担任の後に続けて、素早く語彙の発音練習をした。児童は映像に注目しながら良く反応して練習していた。 ○道案内に必要な表現も矢印をモニターに表示させながら“Do you remember this?”, “What does this mean?”など担任が英語で発問しながら児童の反応を引き出した。 ●担任⇄全員の児童のやりとりになりがちなので、列毎や班毎に練習させ変化を持たせると良かった。 ●1回目からすぐにデジタル教材に合わせて言う練習となったが、まずは英語をよく聞かせる。日本語との違いを意識させたかった。 ○速度を変えることで、言いやすくなったり、単調でなくなる。また、デジタル教材を離れ、児童と手拍子でやったが児童はより言いやすくなっていた。

(2) 検証授業2 検証する主な活動(あいさつ~ウォームアップ・語彙の練習・活動の導入場面)

単元「形と色」(B 小学校4年)

活動内容	○成果と●課題
<p>(チャイム前に英語の音楽を流した)</p> <p>1 あいさつ</p> <p>①座ったまま全体であいさつ</p> <p>②担任が数人の児童とあいさつ</p> <p>③担任と児童2人によるモデル提示 あいさつの後に既習表現のやりとり</p> <p>④友だち2人と歩き回ってあいさつ</p> <p>2 語彙の復習 ピクチャーカードを使った色と形の語彙の発音練習</p> <p>3 フィンガー・タッチング・ゲーム</p> <p>①活動の指示とゲームボード配付する。</p> <p>②じゃんけんで順番を決める。</p> <p>③ゲームをやりながら、説明を加える。</p> <p>(活動の切り替わりの教室英語 OK. Next,...)</p> <p>4 国旗クイズ 色をヒントにどこの国の国旗か当てる</p> <p>5 オリジナルフラッグ作りのための材料を買う活動の会話表現導入</p> <p>①パペットを使い、会話を示す。</p> <p>②どんな内容か児童に尋ねる。</p> <p>③もう一度会話を繰り返す。</p> <p>④さらにどんな内容だったか児童に尋ねる。</p> <p>(以下省略)</p>	<p>○外国語学習の雰囲気づくりに役立った。</p> <p>●担任の“Hello, everyone.”に対して全員が反応していない。もう一度繰り返したり、あいさつの前に“Let's start!”など声かけをして全員の注意を向けてからあいさつする。</p> <p>○T⇔SS, T⇔S, S⇔S, SS⇔SSの流れている。</p> <p>○語彙を繰り返し言わせる時、合図を入れず、手を差し出すことで、聞いた音をすぐ繰り返して練習できた。</p> <p>●色と形を組み合わせて繰り返し発音させるとき、“One, two,”の合図を入れたが、聞いた語をすぐ言うように合図は、かけ声でなく、手を差し出すなどで行うようにすると良かった。</p> <p>○T-SSだけの練習になりがちなので、全体の後、列ごとで言わせて、変化を持たせることができた。部分で練習した後、全体でも再度言うようにする。</p> <p>○Let's ~を使って英語で活動内容を伝えた。ペアを作るときも、「ペアを作ってください」と日本語で言わずに“Pair, pair, pair...”と手で組み合わせを示しながら行えた。</p> <p>○ゲームの具体的なやり方は簡単に日本語で伝えた。</p> <p>●黒板にゲームボードを貼り、デモを行うと良かった。</p> <p>●「先生の言った英語をしっかりと繰り返そう」とその活動でのねらいに関する部分は必要に応じて日本語でしっかりと伝えたり、「よく言えているね、○○さん。」と声かけしたりすると良かった。</p> <p>○「それでは、次は・・・」とやらずに、英語での活動の切り替えをした。</p> <p>●T⇔SSのやりとりで、挙手した児童の回答だけで授業が進んでしまうが、ペアやグループで答えを確認させたかった。</p> <p>○担任一人で会話を導入するためパペットを使うことで会話をうまく提示していた。パペットの動きに注目しながら英語を聞くことができていた。</p> <p>○会話を一度だけでなく、どんな内容だったか尋ねた後、もう一度繰り返して聞かせ、その後、内容の確認を児童と行い、新出表現の意味を確認した。</p> <p>●内容の確認のやりとりが、挙手をした児童が進んだので、ペアやグループで相談させることにより、より多くの児童が導入の場面でどんな英語が使われていて、どんな意味だったか考えられるようにしたかった。</p>

(3) 検証授業3 検証する主な活動(あいさつ・歌・絵本・チャンツ・フルーツバスケット)

単元「これ、なあに ~ くだものやさいの名前 ~」(C 小学校2年)

活動内容	○成果と●課題
<p>1 あいさつ 座ったまま全体であいさつ 4人グループであいさつ</p> <p>2 歌 カラーソング</p> <p>3 Touch something green. 指示された色のついているものをさわる活動</p> <p>4 絵本の読み聞かせ</p> <p>①Pre-reading 活動 穴あきクイズ 絵本に出てくるくだものをモニターを見ながら答える</p>	<p>○座った状態で、ペアやグループでのあいさつ活動を行ったが落ち着いた状態でやりとりができていた。低学年では自由に歩き回ってあいさつする活動はコントロールしにくいかもしれない。</p> <p>●“Let's listen to the song.”と指示がされたが、静かにならないまま音楽が流れてしまった。聞く姿勢を作ってから開始したい。</p> <p>○色の名前を復習し、歌う段階では動作もつながら集中して取り組んでいた。</p> <p>●歌を歌うときは立たせて声を出しやすくした方が良かった。</p> <p>○児童が楽しく取り組んでいた。担任の指示も英語とジェスチャーでわかりやすかった。</p> <p>●児童に“Touch something ~”を言わせていたが、表現を練習してから活動に入ると良かった。</p> <p>○児童が食い入るようにモニターを見て担任の質問に答えようとしていた。</p>

<p>②読み聞かせ ③Post-reading 活動 くだものチャンツ</p> <p>5 フルーツバスケット ①円を作り、くだものカードを配る。 ②児童一人を中央に立たせ、デモをしながら説明 ③ゲームを行う。</p> <p>(以下省略)</p>	<p>●児童の反応に「マロン」など答えにはないものがあったが、関係する語句は児童の声を拾ったかった。 ●英語を読んだ後、すぐに日本語訳を伝えていたが、絵から十分に内容が想像できるので、日本語訳はしないほうがよい。英語の音やリズムをしっかりと聞かせたかった。 ●チャンツの練習時間が長く、児童の集中力がとぎれた。 ○チャンツを聞いた後、何が聞こえたか近くの児童と相談する時間をもって答えさせた。 ●I like ～. につなげるには複数形が必要で絵カードも複数にした。また、低学年では文字を示さない方が音声に集中できた。 ●複数の説明を日本語で行ったが、見えるもので口頭で比較して示すだけで十分意味や表現の違いが推測できた。</p> <p>○児童は楽しんで活動に取り組んでいた。 ●ゲームの説明に使った英語表現が難しすぎるので、ジェスチャーを交えながら最小限の英語で伝えたかった。学級の状況に応じて日本語を使つての説明でもよい。 ●何が好きかの質問に対し、カードを引いての答えだったが、自分の好きなものを答えると聞く側も友だちの好きなくだものが何か聞こうとしてより集中できる。 ●低学年が複数形を使える必要はないが、指導する側として数の違いに気をつけて英語の音を聞かせたかった。</p>
--	--

(4) 検証授業4 検証する主な活動(サイモンセズゲーム・ミッシングゲーム・漢字かるたゲーム)
単元「曜日で遊ぼう」(D 小学校3年)

活動内容	○成果と●課題
<p>1 あいさつ 全体→担任と児童→児童と児童(2人と話して座る)</p> <p>2 サイモンセズ・ゲーム</p> <p>3 歌(曜日) モニターでHi, friends!の歌を利用 ①聞く②歌う③カラオケで歌う</p> <p>4 ミッシング・ゲーム</p> <p>5 漢字かるたゲーム ①モニターでデモンストレーションを行う。 ②グループにカードを配付する。 ③各グループでゲームを行う。</p> <p>(以下省略)</p>	<p>○成果と●課題</p> <p>●日本語の号令で授業が始まった。英語学習の雰囲気作りのためにも英語で授業に入りたかった。 ●会話のスタートがHow are you?になってしまったので、Hello や Hi を使ってまずは挨拶から始める習慣をつけた。 ○担任が英語で指示を出し、児童は実際に動きながらルールに気付くようにしていた。 ○どんなルールなのか児童に確認した。 ○初めて行うときなどは、スピードを落としてゆっくりやるとわかりやすい。 ●身体の部分の発音を最初に確認したかった。そうすることで児童はより自信をもって動けるようになる。</p> <p>○Hi, friends!のデジタル教材の歌を活用したので、児童の関心も高かった。デジタル教材はビクチャーカードも含め全学年で活用できる。 ●全体で1回だけ歌った後すぐにカラオケで歌ったが、それぞれの曜日を1つずつ確認するとより児童は自信をもって歌える。 ●最初に“Today, we are going to sing ～.”と難しい表現で活動に入ったが、“Let's sing a song!”のほうがわかりやすかった。</p> <p>○曜日カードを示しながら“What day is it?”と尋ね黒板にカードを貼っていき、ミッシングゲームで使うカードを準備した。 ●まだどの曜日が英語と対応するのか定着していないので4人グループで曜日を順に言う練習などを行ってからやると児童が答えやすくなった。 ●挙手した児童が進めると分からないままの児童が出てしまうので、ペアで相談する時間をとると良かった。</p> <p>○児童は活動方法をすぐに理解し、楽しみながら取り組んでいた。 ●デモを黒板で行った方が動きがわかりやすかった。モニターを使ったデモも英語での説明が多くわかりにくくなってしまった。 ●英語をどのように言うのかルールをデモの中で示し、英語を使うことを徹底させたかった。1つのグループが行うゲームをみんなで見ながら、ルールを確認するのも良い。 ●ゲームが始まって、ある児童が「木曜日は何だっけ？」と尋ねる場面があったので、曜日カードを黒板に貼っておくとヒントになった。</p>

(5) 指導事例映像とスクリプトの作成 (別冊資料)

検証授業で明らかになった成果と課題を踏まえて、再び授業実践を行い、ビデオに記録し、研究会議で検討、修正を繰り返した。別冊資料は、今まで取り組んできた様々な指導事例映像の教室英語を書き起こしたスクリプトと活動の留意事項をまとめたものである。サインズウェブを活用し、学級担任が参照できる資料として提供したいと考えている。

①活動の分類

授業の流れに沿って、授業展開場面と諸活動を分類し、参照しやすくなるようにした。検証授業では取り上げなかった活動についても授業で行い、ビデオに記録、研究会議で検討し、事例に加えた。また、同じ活動であっても低中高学年での指導の違いが見られると考え複数の事例を記録した。諸活動の分類については、直山 (2010) と酒井 (2014) の分類を参考にした。

- (1) 始まりのあいさつ～ウォームアップ活動 (4 事例)
 - (2) 歌やチャンツ (セブンステップス 曜日の歌 チャンツ)
 - (3) 英語に慣れ親しませる活動
 - ① 聞く活動 (ふくわらい サイモンセツズ・ゲーム 2 事例)
 - ② 聞いて、くり返し言う活動 (ステレオ・ゲーム キーワード・ゲーム 3 事例)
 - ③ くり返し言う活動 (アニマルバスケット 漢字合わせ ドン・じゃんけん・ゲーム カードマッチング・ゲーム)
 - ④ 覚える活動 (ミッシング・ゲーム 3 事例)
 - ⑤ コミュニケーション活動 (スリーヒントクイズ)
 - (4) 振り返り～終わりのあいさつ (1 事例)
- ※ () 内は今回、映像化した言語活動

②作成事例

作成した事例の中から、(1) 始まりのあいさつ～ウォームアップ活動 (6 年) を示す。

(1) 始まりのあいさつ～ウォームアップ活動 (6年)

T: OK. Let's start. Stand up, please. Good morning, everyone.

How are you today? (全体に声をかける)

SS: I'm fine, thank you. (児童は学習状況に応じて様々に答える) And you?

T: I'm great, thank you. Sit down, please.

T: Good morning, S1. How are you today? (個別に3～4人の児童とあいさつする)

S1: Fine, thank you. And you? (他の児童がやりとりをしっかりと聞いている状態で行う)

T: I'm great. Thank you. (S2, S3 も同様に進行)

OK. I need volunteers. Any volunteers? Oh, S4 and S5. Please come here.

Please look at us and listen carefully. (全体に向かって)

Good morning, S4.

S4: Good morning, Mr. (or Ms.) ***.

T: How are you today?

S4: I'm happy, thank you. And you?

T: I'm fine, thank you. Well... I like soccer. Do you like soccer?

S4: Yes, I do. I like soccer, too.

T: Oh, you like soccer, too. Thank you. See you.

S4: See you.

*この後に児童同士でもデモンストレーションを行う (S4⇔S5)

T: Thank you, S4 and S5.

「今日は好きなスポーツについてあいさつの後に聞いてみましょう。」

OK. Please talk with 2 boys and 2 girls. Then sit down.

(何人と話せば良いのかを明確に指示する。低中学年は男女別を意識しなくて可)

Now, let's try in 2 (or 3) minutes. Stand up and start!

(話しやすい雰囲気を作るためにBGMをタイマー代わりに流す)

ビデオのやりとりをそのまま記述。映像を見ながら参照できるようにする予定。

その場面での留意事項を日本語で記載。

日本語での補足説明。全て英語で、ではなく教室英語を使って日本語を減らす方向で。

<留意事項>

- ・始業前の授業準備中に英語の曲や既習のチャンツなどを流し、外国語学習の雰囲気づくりをするとよい。
- ・ウォームアップ活動では、前時までの既習の内容で練習すると良い。活動前に練習が必要な場合は、全体で練習する。

※事例中の表記について：S(Student 児童), S1(児童1), SS(Students 複数児童または全児童)

T(Homeroom Teacher 担任),

活動を行う上での全体的な留意事項を記述。

Ⅲ 研究のまとめ

本研究では、今まで行われてきた外国語活動における様々な活動を学級担任が英語を使って主導する視点で再検討し、その映像化を行った。その際に、外国語教育において、基本的な考え方になっている第2言語習得理論やそれを生かした授業展開の3つのポイント「聞くこと」、「考えること」、「関わること」を踏まえて検討を進めた。これから外国語活動の授業を行おうとする教員や教室英語を使いながら学級担任が主導する外国語活動を進めたいと考えている教員にとっての参考資料になると考えている。また、今回作成した指導事例映像が、これまでの外国語活動の授業について比較検討する資料となることを期待している。

現在、国は英語教育改革を進めているが、まずは、現行学習指導要領における外国語活動の授業を学級担任が主導する形で行えるようにしておくことが大切である。これから導入されようとしている中学年で外国語活動および高学年での教科化は、現在の外国語活動の成果を踏まえたものである。本市においては、これまでも低・中学年の外国語（英語）活動の5・6年生への円滑な接続を働きかけてきたが、今後を見据え、低・中学年の指導の際も現在の外国語活動の理念を生かした学級担任が主導する授業づくりを推進していくことが重要である。作成した指導事例は、高学年だけでなく、低・中学年も共通の視点をもちながら作成している。学年を問わず、外国語活動の授業を進める際の参考にしていただきたい。

Ⅳ 今後の課題

今回映像化した事例は、外国語（英語）活動でよく行われる諸活動の一部にすぎない。しかし、他の活動を行う際にも学級担任が教室英語を使いながら、どのように授業を進めていけばよいのか参考になると考えている。今後、研究推進校や実践事例集の取組も映像資料として残し、様々な事例をすぐに参照できるような仕組みを構築できたらと考えている。また、ALT との指導事例の作成も検討したい。本年度作成した事例は来年度4月からサインズウェブを通して活用できるように準備を進める予定である。

最後に、本研究を進めるにあたり、適切なお助言をいただいた先生方、研究をご支援いただいた研究員所属校の校長先生並びに教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

酒井英樹『小学校の外国語活動 基本のき』 大修館書店 2014

直山木綿子『教育技術 MOOK 新任教師のしごと外国語活動ゲーム活動の基礎基本』 小学館 2010

田村岳充『小・中の授業をつなぐ！教室英語使い方ガイド&フレーズ集』 明治図書 2010